

知的障害の状況や程度に応じた指導の 在り方について

令和7年3月
東京都教育委員会

はじめに

知的障害特別支援学校の小・中学部については、学習指導要領において年間の総授業時数の標準が定められている一方で、各教科等の配当時数においては学校間で差がみられる状況にあります。

また、普通学級における自立活動については、各教科等を合わせた指導の中で取り扱うことが効果的であると整理しています。

同じ義務教育段階である小・中学校において、教科等ごとの年間の授業時数の標準が規定されていることを踏まえると、知的障害特別支援学校においても、各教科等の授業時数の設定の根拠を明らかにしながら教育課程を編成する必要があります。また、普通学級における自立活動の指導の在り方についても検討が必要です。

そこで、本研究では、知的障害特別支援学校の小・中学部の教科指導と各教科等を合わせた指導の関係や考え方について、研究指定校の事例を元に整理し、知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方をまとめることとしました。

I 知的障害特別支援学校の小・中学部における各教科等の指導について

1 現状

本事業の研究指定校における、教科別の指導と各教科等を合わせた指導それぞれの指導内容や授業時数の設定の状況を確認したところ、以下のことが分かりました。

- ・ 教育課程は学校の実情や在籍する児童・生徒の実態、周辺環境等を踏まえ、校長が編成します。そのため、各教科等の配当時数は学校により異なりますが、一方で各教科等の配当時数の設定の根拠を明らかにできていない現状があります。
- ・ 各教科等の配当時数の根拠となる年間指導計画の作成は組織的に行う必要がありますが、教科会の活用や組織的に行うカリキュラム・マネジメントに関しては学校ごとに課題があります。
- ・ 教科別の指導と各教科等を合わせた指導それぞれの指導内容や授業時数の関係について、※意識して検討できている場合と、内容の整理が十分でない場合があります。

※校内で検討が深まっていない場合があります。

2 課題

知的障害特別支援学校における、各教科等の内容の扱い方や設定する授業時数の根拠を明らかにしながら、教科別の指導と各教科等を合わせた指導の関係や考え方を整理する必要があります。さらに、各教科等を合わせた指導については、カリキュラム・マネジメントの考え方にに基づき、設定の理由を明らかにしながら単元を構成するための方法を示す必要があります。

II 知的障害特別支援学校の小・中学部における教育課程の適切な編成について

1 教科別の指導と「各教科等を合わせた指導」の関連

各教科等を合わせた指導は、学校教育法施行規則第 130 条第 2 項において、以下のように示されています。

「知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる」

つまり、児童・生徒の実態に応じて指導内容や指導方法を工夫して、教科別の指導で学ぶことができる場合は、教科別の指導を行うことが基本となります。一方、各教科等を合わせた指導の形態の方が児童・生徒が学びやすい内容があるとしたら、これは、「特に必要がある」ということになるため、生活単元学習等の中で取り扱うことが適当ということになります。

このことから、本研究では、教科別の指導として時間を設けて行うことの少なかった小学部「生活」、中学部「社会」「理科」の指導に焦点を当て、研究を行いました。

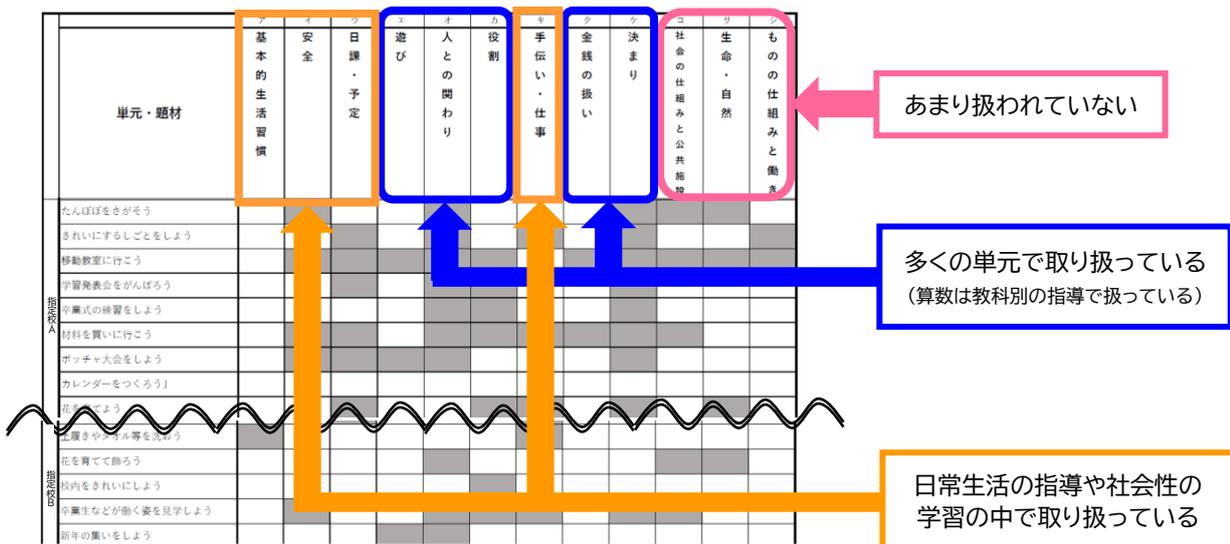
このような分析を行うなどして、指導計画を立案し、適切な時数を配当して指導を行うことが重要です。

	日常生活の指導	生活単元学習	遊びの指導	社会性の学習	関連のある教科
ア 基本的生活習慣	◎	△	△	△	
イ 安全	△	△	△	△	○体育
ウ 日課・予定	◎	△	×	△	
エ 遊び	△	△	◎	△	○体育
オ 人との関わり	◎	◎	○	◎	
カ 役割	○	◎	△	○	

例：取扱いの頻度 ◎：かなり多い、○：多い、△：少ない、×：ほとんど扱われていない

2 教科別の指導「生活」の設定と授業時数の配当について

研究指定校の小学部 6 学年の生活単元学習の年間指導計画において、教科「生活」の各内容がどのように取り扱われているかを分析したところ、以下のように整理することができました。



生活単元学習であまり扱われていないとされる、「サ 生命・自然」「シ ものの仕組みと働き」は、中学部の「理科」につながる内容です。また、「コ 社会の仕組みと公共施設」は「社会」につながる内容です。中学部の指導にスムーズにつなげることを考えると、コ、サ、シの内容も丁寧に扱う必要があります。しかし、既存の生活単元学習の「単元」の中では扱うことが難しい内容であったことから、コ、サ、シを「生活」の時間で扱うこととし、年間指導計画を作成しました。

【「生活」の年間指導計画の例】

月	単元(題材)名	指導 時数	●主な学習内容/○ねらい(評価の観点)	指導の工夫
4	季節について 知ろう (教科書使用)	4	●春の花調べ、春の花木調べ ○草花などの特徴や変化が分かり、関心をもって調べたり、学んだりすることができる。	実物を見たり、触れたりする場面を設定する。
5	種を観察しよう	3	●野菜の種を見てみよう ○種の特徴や植え方について学ぶことができる。	近くで種を見て、特徴に気付くようにする。
6	身近な仕事について知ろう	3	●身近に暮らす大人の職業を知ろう ○身近な大人の職業の種類、特徴について知る。	実際の仕事の様子を写真や動画で見る場面を設定する。
7	はなのようすをつたえよう	2	●季節の花の特徴調べ ○身の回りにある花の特徴や種類について学ぶことができる。	実物を見たり、触れたりする場面を設定する。
	はなのようすをつたえよう		●季節の花の特徴調べ ○身の回りにある花の特徴や種類について学ぶことができる。	近くで種を見て、特徴に気付くようにする。

→ 「生活」のコ、サ、シの内容を中心とした年間指導計画に沿って指導を行った結果、指定校からは、指導を焦点化したことにより児童が学びやすく、教員が指導しやすいという報告を得ました。

(具体的な事例は5～9ページに掲載)

また、各指定校での実践から、年間 35 単位時間を目安として、教科別の指導として取り扱うことにより、指導内容を意識して、効果的に指導を行うようになることが分かりました。

3 教科別の指導「社会」「理科」の設定と授業時数の配当について

中学部の「社会」「理科」も、「生活」と同様に、既存の各教科等を合わせた指導の枠組みの中では扱うことが難しい内容がありました。そこで、指定校による実践及び検討の結果、考え方を以下の2つに整理しました。

◇学習指導要領のすべての内容を教科別の指導で扱う場合

→ 「社会」「理科」それぞれ年間 35 単位時間程度設定する

◇学習指導要領の内容を、教科別の指導で扱う内容と、各教科等を合わせた指導で扱う内容に整理して指導する場合

→ 「社会」「理科」それぞれ年間 17 (18) 単位時間程度設定するとともに、各教科等を合わせた指導で学ぶ方が学びやすい内容については生活単元学習等において扱う

この場合、「社会」「理科」の内容を、教科別の指導で扱う内容と、各教科等を合わせた指導で扱う内容に整理することが大切です。

Ⅲ 事例

研究指定校において小学部「生活」、中学部「社会」「理科」を教科別の指導として指導を行った事例等を紹介します。

小学部 教科「生活」の事例①

6年生の年間指導計画（例）

学 部	小学部	学 年	6年
教科等名	生活科	グループ名	
教科等のねらい	(1)自分自身と身近な人々、社会及び自然の精養やよき、それらの関わりを築く、 (2)社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現する。 (3)自ら社会及び自然に働きかけ、意欲をもって学び、生活を豊かにしようとする。		
担当教員	〇		
年間授業時数	35 時間		
使用教科書	せいかつ☆☆☆		
単元（題材）名	実施月	指導時数	指導の工夫
きままりを考えよう	4月	2	〇単元（題材）のねらい(a)知識及び技能 (b)思考力・判断力・表現力等 (c)学びに向かう力、人間性等 ・主な学習内容【学習指導要領の内容】 ・考えや思いを伝える機会を設ける。 ・生活単元学習との関連：「新学期について知る」
「土づくり・花そだて」を知ろう	5月	4	〇単元について理解することによって自分たちと地域とのつながりや考えをきかせる。(a)(b) ・地域に関する説明を聞く。【学習指導要領との関連：「土づくりをそだててつなぐ」】 ・「50%と倍の増やす」「増やせぬつなぐ」を学ぶ。 ・生活単元学習との関連：「土づくりをそだててつなぐ」
野菜の生長を知ろう	6月	4	〇野菜が生長していく様子を感じることによって生命や自然について考える。(b) ・栽培で育てた野菜の生長を写真で見比べて観察や変化を知る。【学習指導要領との関連：「野菜を育てよう」】 ・タブレット端末等の活用により観察の様子を撮影する。 ・「観察日記」や「観察記録」を作成する。
マナーについて知ろう	7月 9月	4	〇公共機関や人との関わり方について学び、自分でも実践しようとする意欲を高める。(a)(b) ・公共機関の利用の仕方や人との関わり方などをロールプレイなどして学ぶ。【学習指導要領との関連：「公共機関を利用しよう」】
ものの重さについて知ろう	9月 10月	6	〇ものしるしを変えても同じ重さであったり、同じ形でも重さが違ったりすることを知る。(a) ・ばね秤や天秤などを用いて様々なものを比べる。【学習指導要領との関連：「ものの重さを知る」】
身近な地域について知ろう	11月 12月	6	〇自分たちの住んでいる街や通っている学校の周りについて知る。(a) ・自分たちの身近な街の名称や特徴などを知り、何が異なるか調べる。【学習指導要領との関連：「自分たちの街を知る」】
風について知ろう	1月 2月	6	〇風ので物や動くことを知り、自分でも実際に体験する。(a)(b) ・様々な方法で風を起こしたり、強弱をつけたりすることで動き方も変化することを調べる。【学習指導要領との関連：「風について知る」】
中学部へ向け考えよう	3月	3	〇小学部を振り返り、中学部で自分自身が目指すべき目標や課題を話し合う。(c) ・小学部を振り返り自分や周りの人や環境にどのような影響があるか調べる。【学習指導要領との関連：「振り返り」】
使用する主な教材	インターネットボード、PC、デジタルカメラ、タブレット端末、地図、秤、うちわなど		

単元「風について知ろう」の事例

- ・ねらい
風ので物や動くことを知り、自分でも実際に体験する。
- ・学習指導要領上の位置付け
3段階 シものの仕組みと働き
(ア)日常生活の中で、ものの仕組みや働きが分かり、それらを表現すること。
(イ)ものの仕組みや働きに関して関心をもって調べること。
- ・単元計画

	ねらい	活動内容
第1時	「風」について知る	・NHKforschool を使って「風」について知る
第2時	風はどこから吹いているかを知る	・風車づくり
第3時		・作った風車を使い、風が吹いてくる方向を知る
第4時	風ので物や動くことを知る	・凧づくり
第5時		・風ので物や動くことを知る
第6時	学習のまとめ	・パワーポイント等を見て学習を振り返る

風について知ろう	1月 2月	6	〇風ので物や動くことを知り、自分でも実際に体験する。(a)(b) ・様々な方法で風を起こしたり、強弱をつけたりすることで動き方も変化することを調べる。【学習指導要領との関連：「風について知る」】	・なぜこうなるのかという疑問を児童がもてるように活動を設定するようにする。 生活単元学習との関連：「正月遊びをしよう」
----------	----------	---	--	--

【第2時】

目標:風はどこから吹いてくるかを知る

内容:風車づくり(作った風車を使い、風が吹いてくる方向を知る)

児童の様子

風車づくり:画用紙にはさみで切れ込みを入れ、ストローを刺し回すようにする

→風車は見たことのある児童も多く、早く回してみたい気持ちから意欲的に活動していた。

風車の体験 屋上で自作の風車を回す。

→風を捉えて上手に回す児童もいれば、吹いてくる風で回らないと風車を持って走りだし、自から風を起こしている児童もいた。

○児童の様子等

風車の体験では、「こっちから風が吹いている」「風が強い」「風車が回った」等、風に関する発言が多く出ていた。普段から身近にある風であるが、目に見えないため意識することも少ないが、この体験を経ることにより風について関心が深まったようである。

小学部 教科「生活」の事例②

5年生の年間指導計画（例）

独立特別支援学校 年間指導計画（単位時間指定の授業） 小学部5学年			
教科名等	生活	グループ 名	〇〇
ねらい	(1) 具体的な活動を通して、社会や自然に関心をもち、身の回りの生活に必要な習慣や技能を身に付ける。 (2) 身の回りの生活や、社会、自然との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。 (3) 自分のことに誇りをもつしたり、社会や自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとする。		
使用教科書	日本保健福祉シリーズ『もういっかいまただ』 福音館書店 知育絵本『マウのすかかん』 絵本出版 ことばのずかんM1の10『たべもの』のひかりのくに		担当教員(MT) 〇〇
実施月	単元（題材）名	単位 時間 数	指導目標・ねらい
4・5・6月	・生活オリエンテーション ・〇〇たんけんたい～学校のまわり～ ・秋と友達になろう ・きれいな花をさかせよう～ヒヤシンス～	10	・生活の学習活動に見通しをもつ。 ・新しい授業や特別教室などに関心をもつ。 ・季節の特徴や天気や空の様子に関心をもつ。 ・ヒヤシンスの成長や球根の形の変化に気付き、植物に関心をもつ。
7月	・夏と友達になろう	2	・季節の特徴や天気や空の様子に関心をもつ。
9月	・つくってあそぼう～虫とあそぼう～	3	・虫の力で動くおもちゃに興味・関心をもつ。
10・11・12月	・〇〇たんけんたい～学校のまわり～ ・秋と友達になろう ・きれいな花をさかせよう～ヒヤシンス～	10	・駅や図書館の役割、利用の仕方が分かる。 ・学校の周りにどのような公共施設があるか、消防署、警察署、郵便局などの役割やどんな時に利用するかを知り、関心をもつ。 ・季節の特徴や天気や空の様子に関心をもつ。 ・ヒヤシンスの成長や球根の形の変化に気付き、植物に関心をもつ。
1・2月	・つくってあそぼう～ゴムとあそぼう～ ・冬と友達になろう	7	・ゴムを付けて遊ぶことによって、物が動く様子に興味をもつ。 ・季節の特徴や空の様子に関心をもつ。
3月	・〇〇たんけんたい～学校で働く人～	3	・学校で働く人、等身や動画に気付き、それを知り、関心をもつ。

単元「学校の周りの地図を作ろう」の事例

- ・ねらい
 - ・公共施設の名称と役割を理解する。
 - ・消防署や郵便局等の身近な公共施設に気付き、名称等を伝えようとしている。
 - ・公共施設に関心をもち、意欲や自信をもって取り組もうとしている。
- ・学習指導要領上の位置付け
 - 【コ 社会の仕組みと公共施設】
- 小学部2・3段階 コ(ア)(イ)
- ・単元計画
 - 1：公共施設について知る
 - 2：学校周辺の探検、写真撮影
 - 3：地図作り、まとめ

10・11・12月	・〇〇たんけんたい～学校のまわり～ ・秋と友達になろう ・きれいな花をさかせよう～ヒヤシンス～	10	・駅や図書館の役割、利用の仕方が分かる。 ・学校の周りにどのような公共施設があるか、消防署、警察署、郵便局などの役割やどんな時に利用するかを知り、関心をもつ。 ・季節の特徴や天気や空の様子に関心をもつ。 ・ヒヤシンスの成長や球根の形の変化に気付き、植物に関心をもつ。	・駅の利用の仕方を模擬体験したり、図書館で本を閲覧する経験をしたり本を借りたりする。 ・公共施設の働きについて、動画を見て興味・関心をもったり地図を作ったりする。 ・地域学習などを通して、秋の草木や木の実、落ち葉など秋の特徴に気付き、見つけたものを人に伝えようとする。写真に撮ったり絵に書いたりして発表する。 ・水耕栽培という栽培方法を知り、その成長記録を写真に撮ったり、絵に書いたりして日記をつける。
-----------	---	----	--	--

第1時

目標：公共施設の名称や役割を知る。

学校周辺の地図を作成することを知る。

内容：クイズ形式で公共施設の役割や学校の周りの地図を作成することを知る。

児童の様子：

- ・イラストや緊急車両の効果音に注目し、「これは何のサイレンかな」など、考えたことを発言していた。
- ・「学校の近くにも駅があるね」と身近な地域と結び付けていた。
- ・「地図作りたい！」「ここの写真を撮るんだね」などの発言があり、学習に意欲的に取り組んでいた。

○児童の様子等

- ・地図を作成する活動では「やりたい！」「つくりたい！」などの発言があり、学習に意欲的に取り組む様子が見られた。
- ・地図の作成では、「消防署に行った！」「郵便局にはくまがいたね！」など、自分たちが経験した様子を思い出しながら、すすんで写真を貼る様子が見られた。
- ・公共施設の役割について知ったり、実際に写真を撮影して地図を作成したりすることで、身近な地域に公共施設があることを意識することができていた。

中学部 「社会」の事例

1年生の年間指導計画（例）

東京都立〇〇特別支援学校（知的障害教育部門）年間指導計画			
学 部	中学部	学 年	1年
教科等名	社会		
教科等のねらい	(1)自分と身近なものについて知り、調べようとする。 (2)社会と自分の関わりについて理解し、考えたことを表現する。 (3)身近な社会に自ら関わろうとする意欲をもつ。		
担当教員	〇		
年間授業時数	16 時間		
使用教科書	編者 藤原 店 みるかなががくシリーズ町たんけんはたらく人あついたら		
単元（題材）名	実 施 月	指導 時数	指導の工夫
「ガイダンス」	4月	1	〇単元（題材）のねらい (a)知識及び技能 (b)思考力・判断力・表現力等 (c)学びに向かう力・個性等 主な学習内容【学習指導要領の内容】 〇社会について知り、発達しをもち活動に参加できる。 (c) ・社会の歴史に関する説明を聞く。【社会参加とまきまり】 【公共施設と避難】 【地域の安全】 【産業と生活】 ・活動内容が分かるように図表を添える。
「まきまりを考えよう」	4月 5月	3	〇中学部最初の単元として、この一単元をどのように行動していくのか考える。(c) ・スライド等で中学部として必要なことを知り、皆で頑張ることを考える。【社会参加とまきまり】 〇家庭や学校でのまきまりを知り、生活の中でそれを守ることの大切さが分かる。(c) ・家庭でのまきまりを発表する。【社会参加とまきまり】 〇身近な公共施設や公共物の役割について知る。 (a)(b) ・学校周辺の公共施設の位置を地図で見る。また、その施設がどのような役割を持っているかを知る。【公共施設と避難】 ・ポスターや写真などを用いて、視覚的に分かりやすくする。
「身近な地域を知ろう」	5月 7月	4	〇地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かる。(a)(b) ・地域の安全を守っている人に話を聞いたり、写真や動画を見たりする。【地域と安全】 〇避難や消火の方法、非常食について理解を深める。 ・宿泊防災訓練の写真や動画を見て、有事の際の行動について知る。【地域と安全】 ・ポスターや写真などを用いて、視覚的に分かりやすくする。
「災害や事故に備えよう」	9月 10月	3	〇地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かる。(a)(b) ・地域の安全を守っている人に話を聞いたり、写真や動画を見たりする。【地域と安全】 〇避難や消火の方法、非常食について理解を深める。 ・宿泊防災訓練の写真や動画を見て、有事の際の行動について知る。【地域と安全】 ・ポスターや写真などを用いて、視覚的に分かりやすくする。
「まきまりを考えよう」	11月 12月	3	〇地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かる。(a)(b) ・地域の安全を守っている人に話を聞いたり、写真や動画を見たりする。【地域と安全】 〇避難や消火の方法、非常食について理解を深める。 ・宿泊防災訓練の写真や動画を見て、有事の際の行動について知る。【地域と安全】 ・ポスターや写真などを用いて、視覚的に分かりやすくする。
「仕事について考えよう」	2月 3月	4	〇地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かる。(a)(b) ・地域の安全を守っている人に話を聞いたり、写真や動画を見たりする。【地域と安全】 〇避難や消火の方法、非常食について理解を深める。 ・宿泊防災訓練の写真や動画を見て、有事の際の行動について知る。【地域と安全】 ・ポスターや写真などを用いて、視覚的に分かりやすくする。
使用する主な教材	予定ボード、タブレット端末、地図、写真など		

単元「災害や事故に備えよう」の事例

・ねらい

地域の安全を守るため、関係機関が地域の人と協力していることが分かる。

・学習指導要領上の位置付け

〔社会〕〇1段階 ウ地域の安全

(ア)㊦㊧

・単元計画

	ねらい	活動内容
第1時	災害(火事)について知る	・「社会」にはどのような人がいるか ・災害(火事)が起きたらどうするか ・助け合う(共助)→バケツリレー
第2時	災害と関係機関との関わりについて知る	・消火器を見つけよう ・消防署や警察署の役割について知る

「災害や事故に備えよう」	9月 10月	3	〇地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かる。(a)(b) ・地域の安全を守っている人に話を聞いたり、写真や動画を見たりする。【地域と安全】 〇避難や消火の方法、非常食について理解を深める。 ・宿泊防災訓練の写真や動画を見て、有事の際の行動について知る。【地域と安全】	・ポスターや写真などを用いて、視覚的に分かりやすくする。
--------------	-----------	---	--	------------------------------

第2時

目標：災害と関係機関との関わりについて知る

内容：消火器を見つけよう
消防署や警察署の役割について知る

生徒の様子

消火器探し：

校内図を見ながら歩き、消火器を見つけたところにシールを貼る

→初めは教員と一緒に見つけていたが、次第に生徒が率先して見つけるようになった。

消防署・警察署の役割：

それぞれの映像を見ながら役割について知る。

→クイズ形式で学習を進めたので、積極的に考えたり答えたりしていた。

○生徒の様子等

校内を歩いているときにこれまでは特に反応はなかったが、消火器探しの学習の後、は消火器を見つけ「消火器があった」「火事のと看につかうものだ」との発言があった。

校外での活動中に、学校近くの消防署を通った際、「火を消してくれるところ」との発言があった。

中学部 「理科」の事例

2年生の年間指導計画（例）

東京独立〇〇特別支援学校 年間指導計画				
学 部	知的障害教育部門 中学部	学 年	2年	
教科等名	理科	グループ名	普通学級（11名）	
ねらい	【知識及び技能】自然の事象・現象についての基本的な理解を固め、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、疑問をもつ力と予測や見通しをもつ力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。			
担当教員	〇〇			
年間授業時数	55時間			
使用教科書	小学館の図鑑NEOから新編くらべる図鑑（小学館）			
使用教材	ワークシート、写真カード他			
月	【領域】/単元 【題材】名	指導 時数	指導の工夫	
4	【地球・自然】 オリエンテー ション（星屋手 巻、道標を学ぶ大冒 険）	1	●1年間の学習内容を知る。大事な約束などを ワークに書く。 ○理科の学習で大切なことを知る。	・年間予定や 理科の大切さ を意識させる。 ・一人一台 端末などICT機 器を活用する。 （通年） ・扱う生物は 適時に変更す る。
	【生命】/季節 と生物（春の様 子）	2	●季節と生物（春の様子）（観察・観察） ○動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などに よって違いがあることを知る。 ○植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などに よって違いがあることを知る。	
5	【地球・自然】 /天気と気温 （天気の様子）	3	●天気と気温（実験・観察） ○天気によって1日の気温の変化の仕方に違 いがあることを知る。 ○水は水面や地面などから蒸発し、水蒸気にな って空気に含まれていくことを知る。	・温度計で気 温を測定する。 ・水を温める ことで状態変 化に気付く。
6	【地球・自然】 /雨水の行方と 地面の様子（雨 水の流れ方） （雨水のしみ 込み方）	5	●雨水の行方と地面の様子（実験・観察） ○水は高い場所から低い場所へと流れて集ま ることを知る。 ○水のしみ込み方は、土の粒の大きさが違 いがあることを知る。	・砂山に水を 流し、その様 子を観察する。 ・土の粒の大 きさ（畑の土、 砂等）の違いが 分かる。
7	【生命】/季節 と生物（夏の様 子）	2	●季節と生物（夏の様子）（観察・観察） ○動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などに よって違いがあることを知る。 ○植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などに よって違いがあることを知る。	・扱う生物は 適時に変更す る。

単元「雨水の行方と地面の様子」の事例

1 ねらい

- (1)水は高い場所から低い場所へと流れて集まること、水のしみ込み方は土の粒の大きさによって違いがあることを知る。
- (2)雨水の流れやしみ込み方について、地面の傾きや土の粒の大きさに着目して、これまでの学習内容や生活経験から予想し表現する。

2 学習指導要領上の位置付け

中学部理科「B地球・自然」2段階「ア 雨水の行方と地面の様子」をもとに計画した。

3 単元計画(5時間扱い)

- 第1時:雨のでき方や大気と地表との循環
- 第2時:水の流れ(高いところから低いところへ)
- 第3時・4時:水のしみ込み方と粒の大きさ
- 第5時:単元のまとめと日常の生活のつながり

6	【地球・自然】 /雨水の行方と 地面の様子（雨 水の流れ方） （雨水のしみ 込み方）	5	●雨水の行方と地面の様子（実験・観察） ○水は高い場所から低い場所へと流れて集ま ることを知る。 ○水のしみ込み方は、土の粒の大きさが違 いがあることを知る。	・砂山に水を 流し、その様 子を観察する。 ・土の粒の大 きさ（畑の土、 砂等）の違いが 分かる。
---	---	---	---	---

第3時

目標:水は土の粒の大きさでしみ込み方が違うことを知り、表現する。

内容:「砂場の砂」「畑の土」「水たまりの土」での水のしみ込み方を実験し、土の粒の大きさと水のしみ込む速度について考えた。

1 予想(個人)

・3種類の土のしみ込む順番としみ込み方について予想。「Microsoft Forms」を活用し全体で共有。

2 実験(班ごと)

・3種類の土について、しみ込むまでの時間(速さ)を観察、計測。結果は各自のタブレット端末に記録。

3 結果の考察と発表(班ごと・全体)

・しみ込む速さと土の粒の大きさを考え、粒が大きいと早く水がしみ込むことを発表。

生徒の様子:予想の段階では根拠は説明できず「なんとなく」選択していたが、実験後は粒の大きさから説明することができていた。

○生徒の様子等

日頃土に関心をもつことがない生徒たちにとって、本単元は改めて土の粒の大きさや色、ざわり心地などに注目する機会となり、障害が重度な生徒にとっても体験を通して学ぶことができた。

しみ込み方について、予想の段階では「なんとなく」選択した生徒もいたが、実験を通して確かめ、理解が深まった様子であった。まとめの中で、水たまりができていない場所やその土の特徴を発表する生徒もいた。

障害の状況により、実験前の予想ではイメージがもちにくく選択できなかった生徒にとっても、実験を行うことで主体的に観察をしたり、結果を発表したりしていた。

授業の最後で台風による洪水の被害と関連づけながら説明をした。自然現象と自分の生活とを結び付けて考え、興味をもって話を聞く様子が見られた。

組織的に取り組むカリキュラム・マネジメントの実践例

研究指定校が、校内研究において組織的なカリキュラム・マネジメントについて取り組みました。その実践を紹介いたします。

■ 研究内容

カリキュラム・マネジメントの視点から、教科別の指導、各教科等を合わせた指導、自立活動、特別活動等の関連を検討、整理した年間指導計画と単元配列表を作成し、実施・評価・改善を行う仕組みを確立する。担当者が変わっても教える内容が標準化・共通化されることを目指し、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の維持・向上を図る。

研究目的（3年間）

- ・学習内容を明確にした単元配列表の構築
- ・単元配列表⇒年間指導計画⇒単元の指導計画の作成及び教育課程におけるPDCAサイクルの確立
- ・単元の指導計画の蓄積、3観点を踏まえた学習評価の実施のシステム化

■ 「カリキュラム・マネジメント」推進の4つの重点

文部科学省が示すカリキュラムマネジメントの3つの側面を基にして、校内の研究におけるカリキュラム・マネジメントの推進における重点を、以下の4点とする。

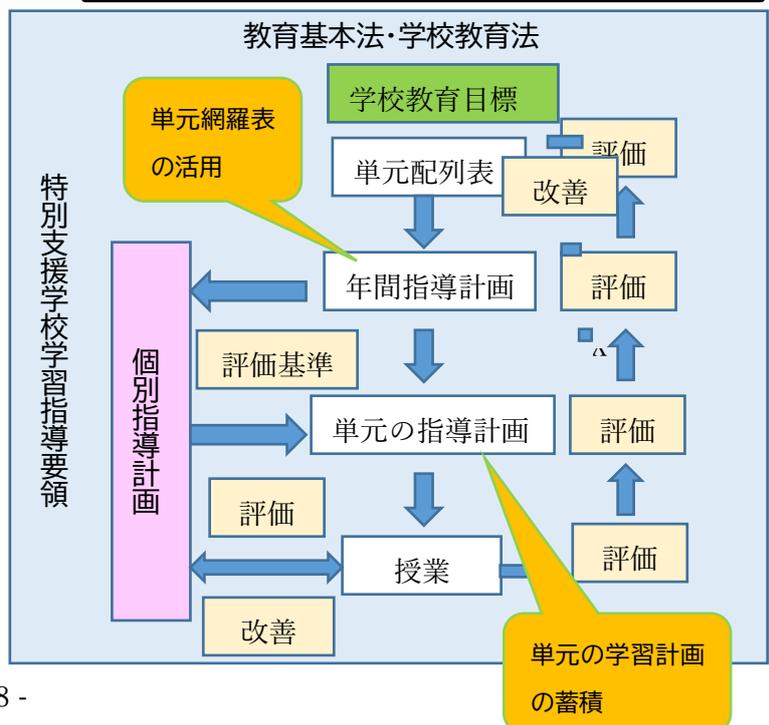
- ①教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- ②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- ③教育課程の実施に必要な人的又は物的な環境整備と社会資源活用を推進しその改善を図っていくこと
- ④個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること

上記の内容を踏まえ、以下の方法で3年にわたり研究を進めた。

■ 研究方法

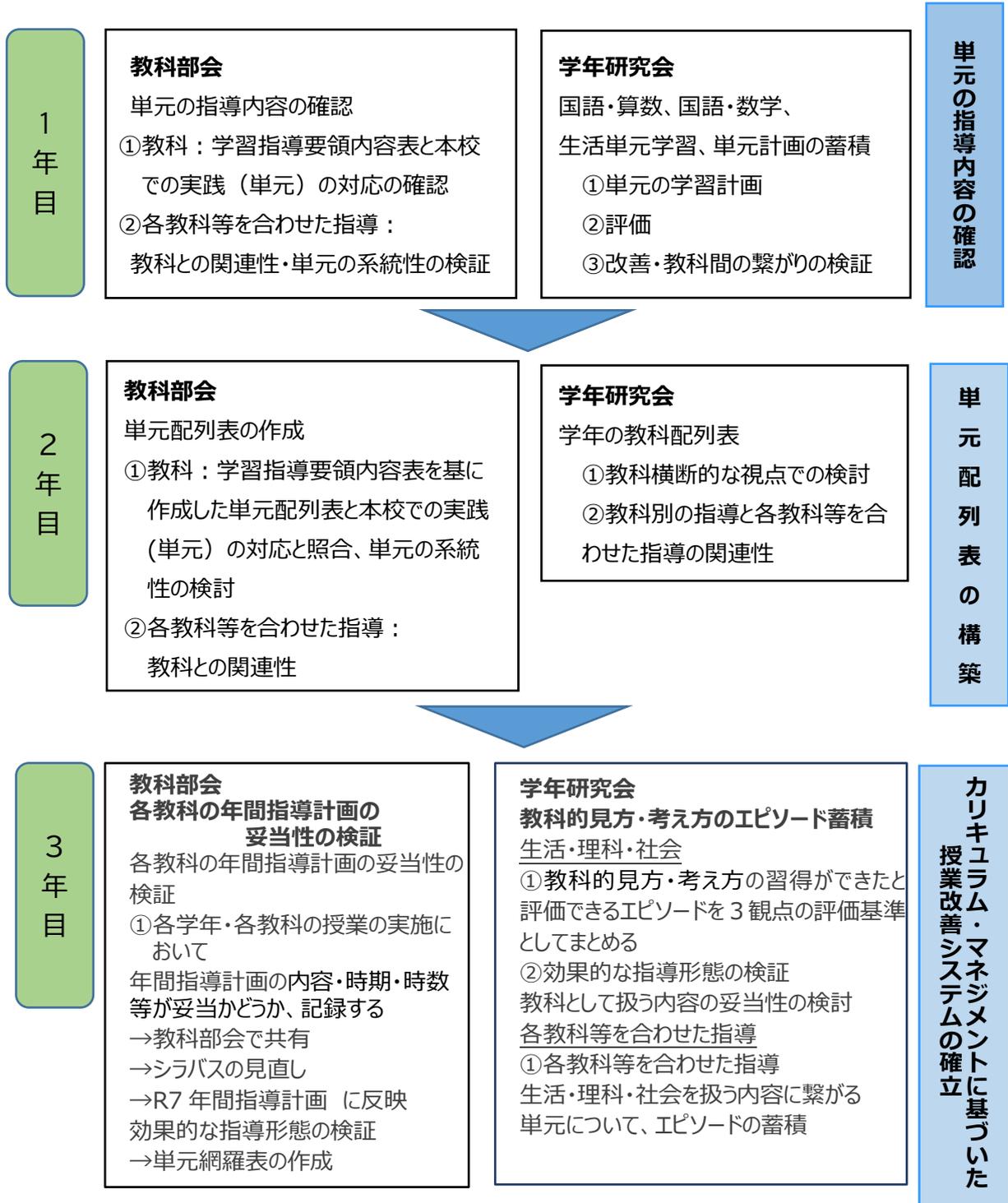
- ①系統性及び関連性のある単元配列表の検討
 - ・単元配列表の構築
 - ・単元の系統性や順序性、および教科間の繋がり の検討
- ② 計画、評価、改善のシステムの構築
 - ・単元の指導計画の蓄積
 - ・児童・生徒の実態に応じて3観点を評価し、個別指導計画との関連を確認
- ③学習内容の取扱いの検討
 - ・単元網羅表の作成
 - ・年間指導計画の妥当性の検討および効果的な指導形態の検討

校内で取り組むカリキュラム・マネジメントの流れ



■ 研究計画

3年にわたり、上記の研究方法の①②③に取り組んだ。単元配列表を構築し、単元配列表から年間指導計画、単元の学習計画を作成し、指導を実施し、観点別学習状況の評価を行う一連のサイクルを検証し、校内システムを確立した。



単元配列表、単元網羅表、年間指導計画、個別指導計画を学校全体で組織的、計画的に作成した。そしてこれらのツールを活用して、計画、実施、評価、改善を図る取組に全教員が関わることで、学校全体で「カリキュラム・マネジメント」を推進できた。